

参加者

市ノ川、神前、鳥飼、中島、松田、町田、山岡、

見送り、青木、

April 13, '96

BMW RS Club

かわらばん

常陸大子、袋田の滝、
そして日立中央へと
春を追っての旅

春の息吹を感じ始めると共に梅の花が咲き、メジロがその花の回りに集まって来て蜜を吸っていましたが、すぐその後には桃や寒ボケ、沈丁花、そしてコブシやカイドウ等が競うように続き、やがて真打登場とばかりに桜が華麗に花開いて、彩りも鮮やかに春が萌え始めました。高速道路を少し走り、見渡すと遠くの山々の頂には、未だほんのりと冬のなごりの雪化粧の残る四月。どことなく何とはなしに心の和む季節です。

桜が咲いてから花冷えの日々が続き、この日も東京地方では未だ7-8分の花が咲き残っていました。先週の日曜日は薄日のさす絶好のツーリング日和でしたのに、又もや気象庁のバカ共に一杯食わされ、本当に腹の立つことでした。「もっと真面目にやれないのかバカヤロー！！」そして予備日の13日の土曜日は、些か風が冷たいながらも素晴らしい一日となり、早くから首都高速も行楽の車で混み合い、いつもは早い人（神前さん）も遅れる程でした。仕事が有るのか寒いからか集まり具合は悪く、9時まで待って7人という案配でしたが、そうは待っていられないからと、お見送りに駆け付けてくれた青木さんに後を任せて出発です。

西那須野塩原ICまでノンストップで走ることになりましたが、出発の時は輝いていた太陽がいつの間にか引っ込み、雲が段々に厚くなり気温も下がってきました。そして矢板を過ぎるころから、風花のように小雪が舞い始めたではありませんか。うお～寒むい！！！料金所のオヤジの話では、“昨日は随分と雪が降ったよ”との事。急に寒さが増して尿意を催し、事務所へ駆け込みました。“こりゃ峠は無理ですね～”ということで平地を走る事としました。インターを出て左に黒磯方面に向かい、途中で黒羽方面へ右折して「ライスライン」という農協が名付け親のような広域農道へと入りました。寒さの為かここいら辺りでは未だ梅や桃の花が咲き、桜は蕾を堅く閉じていました。

三月半ばを暦の上では「桃始笑」とか言いますから、東京地方とは一月ばかりも気候がずれています。杉や桧の林がそこそこに点在し、その常緑樹を背景にして寒椿や梅の花が見え隠れしてのどかな田園風景です。しかし「ネズミ取り」が心配でスピードは控え目？でした。黒羽の町に入る頃から天気は一気に回復し、雲が切れて薄日が射し始めました。寒さに震えていただけにオテントウ様の輝きは、何にも変え難い天からの贈り物でした。

風がやや冷たいものの天気は極上で、国道461を大子（だいご）へと向かいました。ほど良いワインディングの道の両側は茶畠で、散髪を済ませたばかりの頭のように、奇麗なお茶の木が段々畠となって続き、その間をぬうように峠道に入りました。

今日が乗り初めの82年の2本サスRSで参加の町田さんが、年を感じさせない速さで走ります。国道と呼ぶにはおこがましいように道が狭まりましたが、それも暫くで道が開けて那珂川の鉄橋を渡り、やがて「常陸大子」の駅舎を右に見ながら町に入りました。よく有る田舎を感じさせる店並みの商店街です。レンガを敷き詰めた商店街を抜けると久慈川が目の前に広がり、その川辺に有る洒落た「千石」という料亭風の店に入りました。余りに立派な造りで本当に￥3,000会費で飯が食えるか心配になりました。外には「ゆば懐石」というノボリが立っていました。

景気が悪いのか昼間だからか、客は我々だけらしくて静まりかえっています。外にはゆったりと久慈川が流れ、遠くの山々の針葉樹の間には、広葉樹の薄緑色の新芽が浮き上がり、土手の桜の木の枝先が僅かに紅く色づいていました。今朝の雪を笑い話にのどかな春にドップリと浸かった感じです。やがて料理が出て来ましたが、先ずは名物のコンニャクと生ユバをおろしワサビで食べ、それが酒やビールにぴったりと合い、更に天婦羅、茶碗蒸し、竹の子とユバの炊き合わせ等が続き、まさに春を食べている思いです。いや～極楽、極楽。

「いや～本当にうまいね、山岡さんアリガトウよ」と、町田さんも大喜びをする旨さでした。

ゆっくり休んでから近くの「袋田の滝」へ向かいました。川沿いの桜並木に沿ってバイクを止め、金￥100円也を払って展望台へ行きました。水かさの多い時にはシブキがかかる程ですが、今回は渴水なのか水量が少なくて、多めの小便が流れているようでした。

帰途は里見を抜け国道349から、橋のたもとで我々をわざと無視している白バイを睨みつけ、日立有料道路（￥100）を通り、日立中央から常磐道に乗り入れました。

トンネルが多いとはいえるRSクラブにしては珍しく、団体走行でまるでハーレー軍団のようでしたが、要するに各々がガス欠寸前で、ガス節約でユックリと走ったに過ぎません。

水戸で町田さんが「併の所へ行くから」と高速を降りて行きました。本当に息子さんですか？我々は友部ICでガス補給をし、そのまま休まずに守谷SAまで走ることになりました。

ガスが入ったら急に速くなり、久々に参加した松田さんは「いや～速いですね、必死で追い掛けましたよ」と言っていましたが、“今に貴兄が一番前を走るようになりますよ”RSクラブとはそういう魔性を秘めたクラブなのです。走行距離400余キロ。楽しい一日でした。

素晴らしいコースを探し、本当においしい店を探して下さった山岡さん、有難とうございました。参加者一同を代表して、心より御礼申し上げます。今後ともヨロシクお願ひ致します。